

【運営方針4】効率的・効果的な運営

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】効率的な情報共有体制の確保と効率的な業務執行体制づくり					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1 職員の教育能力の向上	(1)職場研修の実施回数:6回	① 研修会への参加及び開催【 拡充 】 指導職員の教育能力の向上のため、研修会への参加した職員による報告会や指導経験豊富な職員の講話による職場研修会を開催する。なお、現在行っている指導職員会議での開催では十分な時間が取れない場合もあることから、その場合には、担任会議等、別の会議で開催する。 <u>職員の資質向上に向け、農大等職員対象の普及指導員対象の技術研修に参加することで情報収集しながら指導に活かしていく。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に農林大学校の経験年数が長い指導職員が講師となり研修会を開催した。(4/3) 指導職員会議開催等の機会をとらえて、外部講師を招きながら、教育手法等に関する研修を実施した。(9/10、10/18) (テーマ:公立高校入学者選抜方法改善、発達障害に係る理解促進) 指導職員が各種研修会に8回9名、研究成果検討会3回3名、普及活動評価会1回3名、各種説明会等3回3名、農作物等検討会1回1名参加し、資質向上を図った。 <p>* 目標6回に対し、職場研修を3回実施し、外部研修等に16回参加したことから「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、経験豊富な職員等を講師に職場研修を実施しながら学生指導のレベルアップに努める。 県庁担当課や外部機関と連携し、指導職員向けの研修会に参加し、研修で得られた新技術や市場動向等に関する情報を指導に活用する。
	(2)授業研究の実施・参加:2回	② 授業研究への参加及び開催【 継続 】 教育能力の向上を図るため、校内で研究授業を行い、職員間で講義や実習の手法等について相互に学び合いう。また、指導職員が高等学校等の授業研究に参加することで指導方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 農場・施設運営のノウハウを共有するため、指導職員参集のもと、GAPの取り組みを行っている果樹経営学科の運営・指導方法について共有を図った。(10/4) (組織改編により専門職大学キャリアサポート・研修センターが、高校を訪問して森林整備に必要な知識と技術に関する実習等を開催し、高校生への指導を行い、指導方法を学んだ。(6月、8月、9月、1月)) <p>* 内部の研究授業を1回実施し、高校を訪問して指導方法を学んだことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き新任指導職員とベテラン職員による研究授業の実施により、職場全体の指導方法の改善を図る。 農場・施設運営の手法についても、互いの学科における工夫や課題を共有することで、それぞれの教育及び職員の資質向上に活かしていく。
2 組織的な運営体制の強化	(1)設備等利用のルール化:1件	① 各種会議の開催【 充実 】 経営会議を毎週開催し、学校運営の基本方針や懸案事項に対する対応方針を決定し、 <u>東北農林専門職大学の職員も含めて職員会議や指導職員会議等において情報共有するとともに、必要に応じて指導職員会議等で具体的な進め方を検討し、課題等に迅速に対応する。</u> また、令和5年度から「農場施設管理運営部会」を設置し、 <u>本校と東北農林専門職大学との間で施設の使用計画などを共有し、圃場及び機械・施設等の円滑な利用を行っていく。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 経営会議(メンバー:校長、副校長、事務局長、教務・調整担当等)の毎週開催、専門職大学キャリアサポート・研修センターの職員も含めた職員会議・指導職員会議の毎月開催等により実習の状況や進路状況等重要事項について協議・情報共有を図った。 学科・コース毎に専門職大側との打ち合わせを重ね、圃場及び機械・施設の利用調整を図った。 <p>* 定例の校内の会議等で情報共有、意思決定を図ったほか、専門職大側との打ち合わせを行う中で、農場、機械施設等利用上のルールづくりが進んでいることから「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、専門職大学の職員も含めた各種会議を開催する中で、専門職大学や職場内のコミュニケーションの円滑化を図るとともに重要事項の意思決定とその共有を図り、迅速な対応につなげていく。 圃場及び機械・施設等に関する専門職大との利用調整については、確認したルールを遵守しつつ、次年度以降も必要に応じて見直しを図りながら円滑な活用に努める。
		② 職員間の情報共有【 継続 】 毎日の朝会において、各学科の実習取組状況や学生の状況等を把握するとともに、農場・施設管理等の部門毎の運営部会の取組みを把握し、日常の校務を効率的かつ確実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日開催する朝会において、各学科の実習や学生の状況等を把握し、日常の校務を効率的かつ確実に実施した。 		
3 県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組み	(1)学校評価:C以上100%	① 学校評価の実施【 継続 】 本校の運営方針は、本県の重要施策等に沿って進め、地域農業を支える担い手の育成を第一義とする教育・研修に取り組みとともに、毎年度、農林大学校運営評議委員会の評価に基づき取組み内容等の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針1～4の全評価項目18のうち <ul style="list-style-type: none"> ・A評価:7 ・B評価:9 ・C評価:2 <p>であり、基準を上回っていることから「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 県の「第5次農林水産業元気創造戦略」の重要施策等を踏まえ、地域の農業を支える担い手育成に取り組み。
	(2)学生の満足度:80%以上	② 学生からの評価の実施【 継続 】 学生による学習及び生活等の満足度に関するアンケートを実施し、これに基づいた改善を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 全学生を対象として、日頃の学習内容や寮生活、学生会活動、サークル活動等に関するアンケート調査を8月と2月に実施した。 「農大に入校して良かったか」の設問に対する学生の回答で、5段階評価の4以上の割合が8月89.9%、2月88.0%となり、概ね高い満足度が得られている。 アンケート調査に基づき、改善が必要な案件については、学生会役員等との打ち合わせを行い、改善を図った。 校長が卒業予定者全員と面談する場を設け、学生から2年間の思いについて意見を聞き取った。 <p>* アンケート調査が、目標の80%を上回ったことから、「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも、学生が充実した学校生活を送れるよう、学生へのアンケート調査と学生会役員との打合せを実施し、課題の把握と改善を図っていく。

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 教育手法等に関する研修会や公開授業は、活発な意見交換が行われることで、職員の指導力向上に繋がった。 学生の授業や寮生活での様子等を指導職員会議等で情報共有しながら、教務学生担当と担任が連携して学生指導にあたるなど、各種会議等を通じて職員間のコミュニケーションを取りながら進めている。 学生に対し年2回のアンケート調査を実施しながら改善を図ることで、学生の満足度向上に繋がっている。 運営評議委員の意見を取り入れながら、県の重点施策に沿って効率的な学校運営を実施している。 	B

学校関係者評価(意見)	学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	評価
<ul style="list-style-type: none"> 県内外より注目を浴びる専門職大学附属農林大学校として模範的な学校運営やチャレンジを期待している。 学生の満足度が目標の80%を超えて高い評価を得ており、さらなる評価向上に期待する。学生からの評価を実施していること、校長が2年生全員と面談し、意見を聞きながら学校運営に当たっている。学生の悩みなど意見箱の設置など迅速な対応が必要である。卒業してから農大の良さを感じる。 学生アンケートからでは上がって来ない課題もあるので、保護者アンケートによる学習・生活などの問題の把握も必要である。 昼食の欠食対策として、年度途中からでも現金購入から引き落としに変更し、昼食の取得が改善されたことは大変よかった。 指導職員の世代交代が進み、指導職員の資質向上に向けた取り組みがなされていることが確認できた。教育能力向上について参加者からの評価を得て進めるとよい。林業部門の指導職員については、意欲が感じられて、満足している。引き続き取り組んでほしい。 専門職大学との連携が円滑になるようなルールづくりの強化が必要である。 各種評価を踏まえた前向きな取り組みを今後も期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 模範的な学校運営やチャレンジについて → 職員の教育能力の向上や組織的な運営体制の強化、県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組みについて今後も推進する。 学生からの評価向上について → 学生に対する学校生活やいじめに関するアンケートの実施や校長による学生の面談を今後も行い、これらを学校運営に反映する。 保護者アンケートについて → 教育振興会と連携し、学生から上がって来ない学習・生活などの問題の把握を行う。 昼食の取得改善について → 今後も、食費の引き落としにより欠食対策を行う。 指導職員の教育能力・意欲の向上について → 指導職員の教育能力の向上のため、研修会への参加した職員による報告会や指導経験豊富な職員の講話による職場研修会、授業研究等を開催し、教育能力・意欲の向上を図る 専門職大学との連携の円滑化について → 専門職大学の職員を含めた会議や打ち合わせを開催し、相互の連携が円滑になる情報交換を行う。 各種評価を踏まえた取り組みについて → 県の「第5次農林水産業元気創造戦略」の重要施策等を踏まえた評価や学生の満足度などによる評価、学校運営評議委員の評価などを参考に学校運営の改善を図っていく。 	B